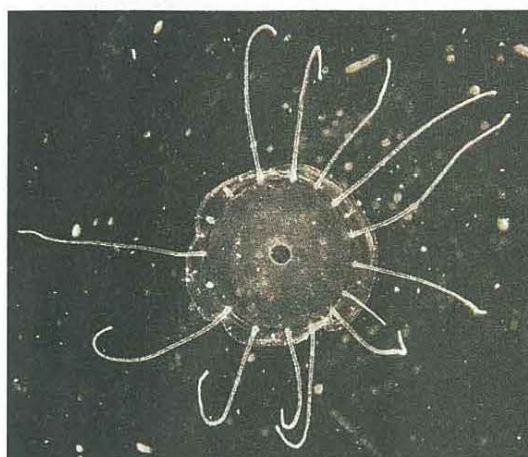


14



△
太陽が放射するように触手を伸ばす
ニチリンクラゲ

名前が示すように、丸い傘の縁から太陽が放射するように触手が伸びるニチリンクラゲ。本来の生息場所は太平洋

の外洋であるが、吹き寄せなどにより田辺湾やその周辺で採取できることがある。

られる口柄が、傘の中央から垂れ下がっていないのが特徴である。

体の中央に丸く開いているのが口である。もっと大きく広げることができるとだが、写真はちょっとだけ開いた状態である。口の周りの薄ぼんやりと不透明な部分が、傘の

透明な傘は、実際にはやや内側に少しくぼんだ小皿状である。傘の縁にそって膜が張られている。浅いくぼみの内側から海水を吐き出して力強く拍動しながら遊泳する。

この個体はまだ若く、傘の直径が3・7ミリしかないが、成長すると10ミリほどに達する。この個体は瀬戸漁港で丁寧にすくいとってすぐ観察したので少ししか傷んでいない。通常、プランクトンネットをひいて捕獲すると、すべての触手はなくなり、丸い円盤のような姿で見つかる。

剛クラゲ類の不思議な生活史がある程度分かっており、全種が海底で付着生活を送るポリプの世代がないのも大きな特徴である。さらに、多くの種は受精卵からクラゲへ成長していく際、幼体が他のクラゲ類に寄生することも確認されている。

(京都大学准教授)

